

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390100299		
法人名	株式会社メゾネット		
事業所名	グループホーム星の家きらり (Aユニット)		
所在地	岡山市中区倉田576-8		
自己評価作成日	令和2年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100299-006ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100299-006ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和2年3月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

モンテッソーリケアを取り組むにあたり、企業理念の5つのポイントを念頭に10項目の具体的なケアを提供しています。特に。きらりはこの1年間感覚や言語の訓練、脳トレに使用できそうな道具をスタッフ皆で積極的に作って行こうと頑張っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

何とかして、利用者へのサービスを高めて、利用者の心地よい姿を追求しようとしている所が素晴らしい。そして、施設長の思う理想に、より早く到達できるよう、職員が一丸になっている姿が垣間見れる。  
現状では満足せず、少しでも改革して行こうとする為に、色々な角度から模索して、新しい取り組みを考えている工夫が見える。施設長自らが行動(他施設の手伝いによって外が見える事)して職員も筒いっばいに頑張っているの、それ以上のサービスを一つ一つ築いている工夫が伺える。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	モンテッソーリケアを進める上で、理念に基づいて実践に繋げていくよう努力している。	理念を、1階リビングと両階の事務所、相談室に掲示している。毎月の会議で唱和し、2ヶ月毎に取り組む内容を決め実践している。各事業所毎に選抜されたメンバーでコア会議を毎月行い、理念をより深めつつ実践できる事はないかと検討を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加。スタッフはお手伝いに参加させて頂いている。囲碁のボランティアの方(週1回)、人材派遣の方と散歩(週1回)など、利用者様1名であるが利用させて頂いている。	町内会に入会してカラオケ大会に参加したり、婦人会のいきいき倶楽部の方に運営推進会議に参加して頂き、いきいき体操の指導をしてもらったりしている。2校の中学生の職場体験を受入れが恒例となっている。町内のクリーン作戦にも参加。散歩や囲碁のボランティアも毎週来てくれる。	付き合いをするだけでなく、認知症のリーダーとして、町内会に介護についての講演や講話をして、地域の存在理解力にアピールしてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で活動されているひまわり会様と交流があり、岡山市のあっぱれ体操をきらりと一緒に参加させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告書と次回の案内を手渡しする事で、よい関係が出来ていると思う。	町内会長・副会長や民生委員、婦人会、家族3名ほど、地域包括支援センター、市の指導課等が参加して、理念を知って頂く機会や、入居状況や活動状況を報告をしている。参加者から、医療や看取りに関する勉強会開催の依頼に対して、提携医や看取りの講師を呼んで学びとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平日開催はほほ市・地域包括の参加があり、ご家族を中心とした土曜日開催は公民館館長様へのお伺いを進めている。	今は、特に感染症の情報共有をメールやファックス・電話にて行っている。運営推進会議の案内や議事録を地域包括支援センターに持参しており、積極的にサービスの取組内容等を伝えている。窓口は施設長であり、普段から話が出来る関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	C会議にて、拘束廃止委員会として話し合いを毎月している。	身体拘束はしていない。毎月、C会議という拘束廃止委員会を開いており、また、年2回、各事業所が持ち回りで講師になって、研修会を開催し、D会議と毎月の職場会議で周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所担当での勉強会もあり、それをきらりに持ち帰り、職員会議に必ず報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を活用されている方もいらっしゃる、関係者との関係も上手くいっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時間は十分に話し合い、理解・納得はされているが入所されてからも疑問点等、ご家族からの要望あれば話し合いの場は設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報交換ノートを活用することで管理者不在でもコミュニケーションは取れている。	普段の面会の際に聞き取った事を専用のノートに綴り、出来るだけ実現出来る様に努めている。面会簿に挟んだ情報交換ノートを利用して、聞きたい事や家族の意見や要望を把握している。利用者の身だしなみで気に留まった事など気軽に口頭やノートに起こして、話がし易い関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務報告書が施設長、管理者に届くので、意見・提案等、各個人とも話し合いの場を作っている。	業務報告書で意見を述べてもらうが、終業後のちょっとした時間を使って、改まらずに、職員の思いをタイムリーに把握し寄り添うえる配慮をしている。普段と様子が違う時は、積極的に話しかけたりしてして、何でもいつでも気楽に話し合える様にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に入社したスタッフには心配りをし、常に声をかける様にしている。職場の雰囲気作りは大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得が出来る職員には、受験をするよう声をかけたり、取得方法を教えたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	モンテッソーリケアの研修会が定期的に行われているので、職員は積極的に参加をし、交流も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入社した職員には常に声をかける様になっている。不安なことがある時には、早い段階で解決する様に職員全体でも話し合いをする様にしている。話を合いを		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際や、また、大切な事は電話をかけるようにし、不安を少しでも早く解決する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報交換ノートの活用。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の得意・不得意を理解し、出来ることはもっと出来る様に協力して笑い合える関係を築いて行きたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今の状態を理解して頂き、今後の事も相談できる関係を築いて行きたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今現在、お友達や知り合いの方が来訪されることはないが、ご家族と出かけたり、ホームにてご家族と一緒に食事をしたりされる方はいらっしゃる。	家族が、馴染みの美容院に連れていく。また、頻繁に来るボランティアが、専ら馴染みの人となっている。遠距離にあるグループ事業所に、物品を預かりに行くついでにドライブをして、利用者同士の交流の機会を作っている。家族と地元に戻ってご飯を食べたりしている。	もっと簡単にできる事から、アプローチしては如何ですか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルの方同士よくお話をされている。耳の聞こえの悪い方はスタッフが間に入り、会話の橋渡しをすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族が自宅で出来た作物をホームに届けて下さる方もあり、職員の顔ぶれも変わっており、来づらい様子も伺える。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の際、職員と一対一なので、ご本人の思いや世間話など、話を聞く機会を作っている。	「どんなものが食べたい?」「肉が食べたい」「寿司が食べたい」「刺身が食べたい」等の要望に、一緒にスーパーに買い物に行き、寿司盛を買ったり、トントキを焼いたりして意向を叶えている。特に、入浴タイムや寝つけない利用者と過ごす夜の時間も意向を把握する絶好の機会である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や昔の事を話して下さることで把握し、それを知ることでケアに繋げて行きたい。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定で観察をし、個々の生活リズムを大切にすることで行動パターンも把握。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリング結果を基に仮プラン作成、カンファレンスにて意見交換を行っている。	入居時に計画を立てて、3か月・6か月にモニタリングを行う。また、定期的に往診医や訪問看護師をはじめ、担当利用者などの意見を、月一度のケース会議で取りまとめに行き、プランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の排泄状況や食事摂取量等、個別記録を記入することで職員間で情報共有し、ケアに役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々によってご家族と話し合い、職員同士で意見を出し合い会議で報告している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関先の畑の水やりや花の水やり、クリーン作戦で利用者さんとゴミ拾いなど、遠出はしないが庭先くらいの感覚で安全な暮らしをして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年2月長い間主治医だったDrが病気のため閉院され、紹介された今主治医との信頼関係はこれから築いていきます。訪問歯科では利用者さんの治療が必要な事を直接ご家族に連絡して頂き、説明をさせて頂いています。	入居前のかかりつけ医を継続できるが、殆どの方が提携に転医される。隔週で協力医が訪問され、他科は、家族が受診を介助する。提携医と訪問看護と連携して、24時間体制で適切な医療を支援している。訪問歯科医と歯科衛生士が連携して、週1回口腔ケアをしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度来所され、その時に現在の様子をお伝えしています。利用者さんが点滴が必要な時も同じ訪問看護ステーションの方が来られるので相談しやすいです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	こちらから定期的に担当のソーシャルワーカーさんに連絡して様子を伺うようにしたり、面会に行き帰所の時期を相談したりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢の利用者さんのご家族は早い段階で「入院はしない」と施設に伝えられ、こちらで看取りをと話されていますので主治医にもその旨報告レク承を得ています。ほとんどの職員がターミナルケアを経験しています。常に職員一丸となって協力合っています。入居前には重度化した場合の対応について家族へ説明しています。	去年は、1名を看取った。入居時と状態の変化を見ながら、適宜、指針を説明し、その時の思いを汲んで同意書を交わしている。看取り期に入る前には、医師が家族に説明している。また、医療行為が無ければ、ターミナルプランを立て、チームで取り組んでいる。年1回、看取り介護についてマニュアルや事例を活用して勉強会を開いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急への電話、持って行く物など会議で話をしているし、ほぼ全員がまずどこへ連絡するかなどしなければいけない事は心得ています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方々にも協力して下さると運営推進会議の時お話がありました。年2回夜間を想定した避難訓練を実施。消防署から消火器の使用方法も学んでいる。災害時を想定しカセットコンロも購入。	年2回、昼夜想定で利用者と町内会に参加して火災・避難訓練(通報・消火訓練等)を行っている。訓練の内容によって消防署の参加がある。2年に1回程度、緊急連絡網を使用した訓練も行っている。備蓄は、普段の食材をストックして活用するスタイルを取り、2日分を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ドアを開ける前にはノックをする様になっています。利用者が居室以外の場所で過ごされている時はご本人に入室理由を説明し掃除、片付け等、許可を頂く様になっています。	入室時のノックや一対一での入浴支援を利用者の誇りやプライバシーに配慮して対応をしている。また、馴れ馴れしい言葉を使用せず、丁寧な言葉使いに努めている。トイレの時は、「ちょっと行こうか?」「食事前だから行こうか?」等とトイレという言葉を使わず言葉をかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で思いを知ったり、選択して頂く様にしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションもしたい事をお聞きしてから行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どちらの服を着るのか言って下さる方にはお聞きしている。朝は寝癖を直すように心がけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎの皮むきやお好み焼きを焼いたり、酢飯を混ぜたり、一緒にすると笑顔になって下さるので、出来ることをして頂いています。	三食手作り。敷地内のプランターで採れたキュウリや茄子、菜の花、トマト等を利用者と収穫して、皮をむいたり、下ごしらえをしたりして器に盛っている。利用者と一緒に近くのスーパーへ食材を買いに行ったり、利用者がリクエストした物を献立に入れたりして、食事が楽しくなる様に工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	テーブルの上にお車が入ったやかんや急須を置いておくと以前より水分摂取量が増加しました。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが上手く出来ない方にはご家族に相談し、訪問歯科の時に衛生士さんによる口腔ケアを受診。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンやタイミングに合わせて声かけやトイレ誘導を行っています。夜間もトイレの声かけをしたり、ポータブルトイレの使用をしたりしています。	「ちょっと行こうか?」「ちょっと手を洗いに行こうか?」などと、周囲に分からない様にさりげなく誘導している。利用者の排泄パターンを職員は把握しており、日中はトイレ誘導、夜間は各利用者に合わせて対応している。普段からの姿を見て、職員が判断して誘導する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に注意し、お茶を何杯もご自分から飲まれる方、甘い物なら飲まれる方など、一人ひとりに応じた摂取方法に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼食後の入浴になる為、昼寝をされる方は後に、ずっとリビングで過ごされている方は先になど、時間を見て入浴順を考えています。入浴剤も入浴される方に選んでもらっています。	週2回の入浴を基本としている。入浴剤を選んでもらったり、ゆず湯を提供しながら楽しく入浴できる様に支援している。また、体調に併せて、足浴やシャワー浴にも対応し、入浴を嫌がる方には、「ちょっと散歩する?」と言ったり、時間や曜日を変えて、気分を変えて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの年齢や体調考慮し、昼寝をしてもらったり、夕食後は早めに帰宅されたり、自由にして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今の症状を主治医に報告し、改善されたら薬が処方されなくなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モンテッソーリケアの実施で集中してされる事が多くなっています。カラオケも購入した事で歌う楽しみも増えました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒い季節は余り外出しませんが、お花見や近くのスーパーの買い物など、車椅子の方でも一緒に出かけられます。家族の会で食事をしたり、散歩がてら一緒に買い物に行ったりされている利用者もいらっしゃいます。	散歩や駐車場でお茶会をしたり、敷地内で体操をしたり、日向ぼっこを楽しんだりして、日常的に外出を楽しんでいる。また、職員と喫茶店へドライブ、家族と地元に戻ったり、日帰り旅行を楽しんだりしている。シルバー人材センターを頼んでいる方が、一緒に散歩を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内の金庫にお金を預けている方や、ご家族よりおやつを買って欲しいと頼まれている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月絵手紙が届く利用者さんがいますが、ご家族が返信用の便箋を用意していますが書かれません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや通路に季節感のあるディスプレイや利用者さんの写真を貼っています。居室内にも家族が写真を持ってこられ沢山貼られている方もいらっしゃいます。リビングカウンターの下には犬や猫の写真を展示。目線にあり「かわいい」と評判です。	各階に、室内にいても季節を感じられるちぎ絵や折り紙で作った大小の作品が、艶やかに飾られている。利用者が映っている写真は、毎月、代えているので新鮮味を感じる。また、テレビは、あまり放映せず、日中は童謡やクラシック等の音楽を流し、利用者が居心地良く暮らせるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同志、居室で話されることもあります。TVをご覧になったり、本を読まれたり、一緒にパズルをされる時もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具を持ってこられる方もいらっしゃいます。居室がお好きで食事がすむとすぐ帰室される方もいらっしゃいます。お位牌を持ってこられている方もいらっしゃいます。亡くなられたご主人の写真を置かれている方もいらっしゃいます。	勤め時代や家族、好きな人と映った馴染みの写真や仏壇やタンス等の家具が持ち込まれており、個々に居心地良く暮らせるように配置されている。また、自作の書や、家族や職員から貰った誕生日カードや利用者が作成した写経等が飾られている。基のボランティアと居室で碁を打って楽しんでいる。毎朝、食事のメニュー表を書いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを迷う方の為に、大きな字で「便所」と書いたり、床にトイレまでの矢印を付けたりして支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100299		
法人名	株式会社メゾネット		
事業所名	グループホーム星の家きらり (Bユニット)		
所在地	岡山市中区倉田576-8		
自己評価作成日	令和2年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?faction_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100299-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?faction_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100299-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和2年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モンテッソーリケアを取り組むにあたり、企業理念の5つのポイントを念頭に10項目の具体的なケアを提供しています。特に、きらりはこの1年間感覚や言語の訓練、脳トレに使用できそうな道具をスタッフ皆で積極的に作って行こうと頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

何とかして、利用者へのサービスを高めて、利用者の心地よい姿を追求しようとしている所が素晴らしい。そして、施設長の思う理想に、より早く到達できるよう、職員が一丸になっている姿が垣間見える。現状では満足せず、少しでも改革して行こうとする為に、色々な角度から模索して、新しい取り組みを考えている工夫が見える。施設長自らが行動(他施設の手伝いによって外が見える事)して職員も筒いっばいに頑張っているの、それ以上のサービスを一つ一つ築いている工夫が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	モンテッソーリケアを進める上で、理念に基づいて実践に繋げていこう努力している。	理念を、1階リビングと両階の事務所、相談室に掲示している。毎月の会議で唱和し、2ヶ月毎に取り組む内容を決め実践している。各事業所毎に選抜されたメンバーでコア会議を毎月行い、理念をより深めつつ実践できる事はないかと検討を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加。スタッフはお手伝いに参加させて頂いている。囲碁のボランティアの方(週1回)、人材派遣の方と散歩(週1回)など、利用者様1名であるが利用させて頂いている。	町内会に入会してカラオケ大会に参加したり、婦人会のいきいき倶楽部の方に運営推進会議に参加して頂き、いきいき体操の指導をしてもらったりしている。2校の中学生の職場体験を受入れが恒例となっている。町内のクリーン作戦にも参加。散歩や囲碁のボランティアも毎週来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で活動されているひまわり会様と交流があり、岡山市のあっぱれ体操をきらりと一緒に参加させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告書と次回の案内を手渡しする事で、よい関係が出来ていると思う。	町内会長・副会長や民生委員、婦人会、家族3名ほど、地域包括支援センター、市の指導課等が参加して、理念を知って頂く機会や、入居状況や活動状況を報告をしている。参加者から、医療や看取りに関する勉強会開催の依頼に対して、提携医や看取りの講師を呼んで学びとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平日開催はほぼ市・地域包括の参加があり、ご家族を中心とした土曜日開催は公民館館長様へのお伺いを進めている。	今は、特に感染症の情報共有をメールやファックス・電話にて行っている。運営推進会議の案内や議事録を地域包括支援センターに持参しており、積極的にサービスの取組内容等を伝えている。窓口は施設長であり、普段から話が出来る関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	C会議にて、拘束廃止委員会として話し合いを毎月している。	身体拘束はしていない。毎月、C会議いう拘束廃止委員会を開いており、また、年2回、各事業所が持ち回りで講師になって、研修会を開催し、D会議と毎月の職場会議で周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所担当での勉強会もあり、それをきらりに持ち帰り、職員会議に必ず報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を活用されている方もいらっしゃり、関係者との関係も上手くいっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時間は十分に話し合い、理解・納得はされているが入所されてからも疑問点等、ご家族からの要望あれば話し合いの場は設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報交換ノートを活用することで管理者不在でもコミュニケーションは取れている。	普段の面会の際に聞き取った事を専用のノートに綴り、出来るだけ実現出来る様に努めている。面会簿に挟んだ情報交換ノートを利用して、聞きたい事や家族の意見や要望を把握している。利用者の身だしなみで気に留まった事など気軽に口頭やノートに起こして、話がしやすい関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務報告書が施設長、管理者に届くので、意見・提案等、各個人とも話し合いの場を作っている。	業務報告書で意見を述べてもらうが、終業後のちょっとした時間を使って、改まらずに、職員の思いをタイムリーに把握し寄り添う配慮をしている。普段と様子が違う時は、積極的に話しかけたりして、何でもいつでも気楽に話し合える様にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に入社したスタッフには心配りをし、常に声をかける様になっている。職場の雰囲気作りは大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得が出来る職員には、受験をするよう声をかけたり、取得方法を教えたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	モンテッソーリケアの研修会が定期的開催されているので、職員は積極的に参加をし、交流も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入社した職員には常に声をかける様にしている。不安なことがある時には、早い段階で解決する様に職員全体でも話し合いをする様にしている。話を合いを			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際や、また、大切な事は電話をかけるようにし、不安を少しでも早く解決する様にしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報交換ノートの活用。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の得意・不得意を理解し、出来ることはもっと出来る様に協力して笑い合える関係を築いて行きたい。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今の状態を理解して頂き、今後の事も相談できる関係を築いて行きたい。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今現在、お友達や知り合いの方が来訪されることはないが、ご家族と出かけたり、ホームにてご家族と一緒に食事をしたりされる方はいらっしゃる。	家族が、馴染みの美容院に連れていく。また、頻繁に来るボランティアが、専ら馴染みの人となっている。遠距離にあるグループ事業所に、物品を預かりに行くついでにドライブをして、利用者同士の交流の機会を作っている。家族と地元に戻ってご飯を食べたりしている。		馴染みの人・場所への支援に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルの方同士よくお話をされている。耳の聞こえの悪い方はスタッフが間に入り、会話の橋渡しをすることもある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族が自宅で出来た作物をホームに届けて下さる方もあり、職員の顔ぶれも変わっており、来づらいうちの様子も伺える。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の際、職員と一対一なので、ご本人の思いや世間話など、話を聞く機会を作っている。	「どんなものが食べたい?」「肉が食べたい」「寿司が食べたい」「刺身が食べたい」等の要望に、一緒にスーパーに買い物に行き、寿司盛を買ったり、トンテキを焼いたりして意向を叶えている。特に、入浴タイムや寝つけない利用者や過ごす夜の時間も意向を把握する絶好の機会である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や昔の事を話して下さることで把握し、それを知ることによってケアに繋げて行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定で観察をし、個々の生活リズムを大切にすることで行動パターンも把握。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリング結果を基に仮プラン作成、カンファレンスにて意見交換を行っている。	入居時に計画を立てて、3か月・6か月にモニタリングを行う。また、定期に往診医や訪問看護師をはじめ、担当利用者などの意見を、月一度のケース会議で取りまとめて行き、プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の排泄状況や食事摂取量等、個別記録を記入することで職員間で情報共有し、ケアに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々によってご家族と話し合い、職員同士で意見を出し合い会議で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関先の畑の水やりや花の水やり、クリーン作戦で利用者さんとゴミ拾いなど、遠出はしないが庭先くらの感覚で安全な暮らしをして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年2月長い間主治医だったDrが病気のため閉院され、紹介された今主治医との信頼関係はこれから築いて行きます。訪問歯科では利用者さんの治療が必要な事を直接ご家族に連絡して頂き、説明して頂いています。	入居前のかかりつけ医を継続できるが、殆どの方が提携に転医される。隔週で協力医が訪問され、他科は、家族が受診を介助する。提携医と訪問看護と連携して、24時間体制で適切な医療を支援している。訪問歯科医と歯科衛生士が連携して、週1回口腔ケアをしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度来所され、その時に現在の様子をお伝えしています。利用者さんが点滴が必要な時も同じ訪問看護ステーションの方が来られるので相談しやすいです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	こちらから定期的に担当のソーシャルワーカーさんに連絡して様子を伺うようにしたり、面会に行き帰所の時期を相談したりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢の利用者さんのご家族は早い段階で「入院はしない」と施設に伝えられ、こちらで看取りをと話されていますので主治医にもその旨報告レク承を得ています。ほとんどの職員がターミナルケアを経験しています。常に職員一丸となって協力合っています。入居前には重度化した場合の対応について家族へ説明しています。	去年は、1名を看取った。入居時と状態の変化を見ながら、適宜、指針を説明し、その時の思いを汲んで同意書を交わしている。看取り期に入る前には、医師が家族に説明している。また、医療行為が無ければ、ターミナルプランを立て、チームで取り組んでいる。年1回、看取り介護についてマニュアルや事例を活用して勉強会を開いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急への電話、持って行く物など会議で話をしているし、ほぼ全員がまずどこへ連絡するかなどしなければいけない事は心得ています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方々にも協力して下さると運営推進会議の時お話がありました。年2回夜間を想定した避難訓練を実施。消防署から消火器の使用方法も学んでいる。災害時を想定しカセットコンロも購入。	年2回、昼夜想定で利用者と町内会に参加して火災・避難訓練(通報・消火訓練等)を行っている。訓練の内容によって消防署の参加がある。2年に1回程度、緊急連絡網を使用した訓練も行っている。備蓄は、普段の食材をストックして活用するスタイルを取り、2日分を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ドアを開ける前にはノックをする様にはしています。利用者が居室以外の場所で過ごされている時はご本人に入室理由を説明し掃除、片付け等、許可を頂く様にはしています。	入室時のノックや一対一での入浴支援を利用者の誇りやプライバシーに配慮して対応をしている。また、馴れ馴れしい言葉を使用せず、丁寧な言葉使いに努めている。トイレの時は、「ちょっと行こうか?」「食事前だから行こうか?」等とトイレという言葉を使わず言葉をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で思いを知ったり、選択して頂く様にはしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションもしたい事をお聞きしてから行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どちらの服を着るのか言って下さる方にはお聞きしている。朝は寝癖を直すように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎの皮むきやお好み焼きを焼いたり、酢飯を混ぜたり、一緒にすると笑顔になって下さるので、出来ることをして頂いています。	三食手作り。敷地内のプランターで採れたキュウリや茄子、菜の花、トマト等を利用者と収穫して、皮をむいたり、下ごしらえをしたりして器に盛っている。利用者と一緒に近くのスーパーへ食材を買いに行ったり、利用者がリクエストした物を献立に入れたりして、食事が楽しくなる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	テーブルの上にお車が入ったやかんや急須を置いておく と以前より水分摂取量が増加しました。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが上手く出来ない方にはご家族に相談し、訪問歯科の時に衛生士さんによる口腔ケアを受診。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンやタイミングに合わせて声かけやトイレ誘導を行っています。夜間もトイレの声かけをしたり、ポータブルトイレの使用をしたりしています。	「ちょっと行こうか?」「ちょっと手を洗いに行こうか?」等と、周囲に分からない様にさりげなく誘導している。利用者の排泄パターンを職員は把握しており、日中はトイレ誘導、夜間は各利用者に合わせて対応している。普段からの姿を見て、職員が判断して誘導する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に注意し、お茶を何杯もご自分から飲まれる方、甘い物なら飲まれる方など、一人ひとりに応じた摂取方法に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼食後の入浴になる為、昼寝をされる方は後に、ずっとリビングで過ごされている方は先になど、時間を見て入浴順を考えています。入浴剤も入浴される方に選んでもらっています。	週2回の入浴を基本としている。入浴剤を選んでもらったり、ゆず湯を提供しながら楽しく入浴できる様に支援している。また、体調に併せて、足浴やシャワー浴にも対応し、入浴を嫌がる方には、「ちょっと散歩する?」と言ったり、時間や曜日を変えて、気分を変えて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの年齢や体調考慮し、昼寝をしてもらったり、夕食後は早めに居室されたり、自由にして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今の症状を主治医に報告し、改善されたら薬が処方されなくなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モンテッソーリケアの実施で集中してされる事が多くなっています。カラオケも購入した事で歌う楽しみも増えました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒い季節は余り外出しませんが、お花見や近くのスーパーの買い物など、車椅子の方でも一緒に出かけられます。家族の会で食事をしたり、散歩がてら一緒に買い物に行ったりされている利用者もいらっしゃいます。	散歩や駐車場でお茶会をしたり、敷地内で体操をしたり、日向ぼっこを楽しんだりして、日常的に外出を楽しんでいる。また、職員と喫茶店へドライブ、家族と地元に戻ったり、日帰り旅行を楽しんだりしている。シルバー人材センターを頼んでいる方が、一緒に散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内の金庫にお金を預けている方や、ご家族よりおやつを買って欲しいと頼まれている方もいらっしゃいます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月絵手紙が届く利用者さんがいますが、ご家族が返信用の便箋を用意していますが書かれませんが。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや通路に季節感のあるディスプレイや利用者さんの写真を貼っています。居室内にも家族が写真を持ってこれて沢山貼られている方もいらっしゃいます。リビングカウンターの下には犬や猫の写真を展示。目線にあり「かわいい」と評判です。	各階に、室内にいても季節を感じられるちぎ絵や折り紙で作った大小の作品が、艶やかに飾られている。利用者が映っている写真は、毎月、代えているので新鮮味を感じる。また、テレビは、あまり放映せず、日中は童謡やクラシック等の音楽を流し、利用者が居心地良く暮らせるように取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同志、居室で話されることもあります。TVをご覧になったり、本を読まれたり、一緒にパズルをされる時もあります。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具を持ってこられる方もいらっしゃいます。居室がお好きで食事がすむとすぐ居室される方もいらっしゃいます。お位牌を持ってこられている方もいらっしゃいます。亡くなられたご主人の写真を置かれている方もいらっしゃいます。	勤め時代や家族、好きな人と映った馴染みの写真や仏壇やタンス等の家具が持ち込まれており、個々に居心地良く暮らせるように配置されている。また、自作の書や、家族や職員から貰った誕生日カードや利用者が作成した写経等が飾られている。碁のボードと居室で碁を打って楽しんでいる。毎朝、食事のメニュー表を書いている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを迷う方の為に、大きな字で「便所」と書いたり、床にトイレまでの矢印を付けたりして支援しています。			